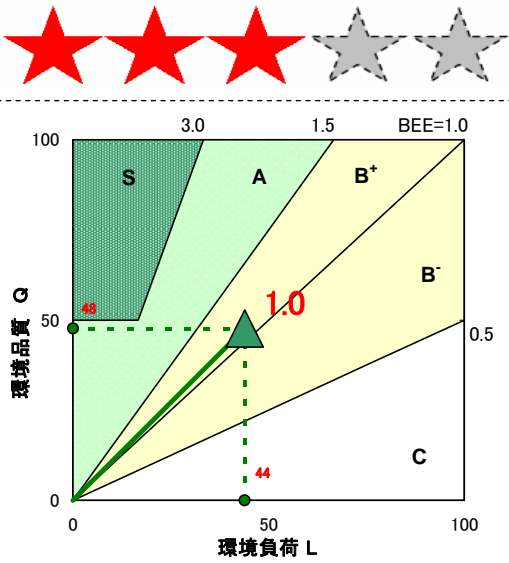


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観		
建物名称	特別養護老人ホームつなぎの里		階数	地上1F	
建設地	熊本県葦北郡津奈木町		構造	木造	
用途地域	都市計画区域外 用途指定無指定		平均居住人員	34 人	
気候区分	地域区分V		年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	病院		評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2012年8月	予定	評価の実施日	2012年3月1日	
敷地面積	5,934 m ²		作成者		
延床面積	2,026 m ²		確認日		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE=1.0

BEE = 1.0

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	-
E ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	-
E ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	-
C	★	劣る	0.5未満	-

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
3C%以下	☆☆☆☆☆
3C%超6C%以下	☆☆☆☆
6C%超8C%以下	☆☆☆
8C%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

89%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価




重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	81.6
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	71.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	90.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	78.7

評価点

81

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE[®]熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	特別養護老人ホームつなぎの里	階数	地上1F
建設地	熊本県葦北郡津奈木町	構造	木造
用途地域	都市計画区域外 用途指定無指定	平均居住人員	34人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年8月 予定	評価の実施日	2012年3月1日
敷地面積	5,934 m ²	作成者	
建築面積	2,068 m ²	確認日	
延床面積	2,026 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	89%
③上記+②以外のオンサイト手法	89%
④上記+オフサイト手法	89%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	2.5
温熱環境	2.6
光・視環境	2.5
空気環境	3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

機能性	3.2
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	3.0

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

建物の熱負荷	2.0
自然エネルギー	4.0
設備システム効率化	3.8
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	3.3
汚染物質回避	3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化への配慮	3.4
地域環境への配慮	3.5
周辺環境への配慮	3.1

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 81

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 82	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 71
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 90	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 79

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

環境設計においてはなるべく環境品質の低下、環境負荷の増加とならぬよう全体を通して標準的な仕様・対策を用いている。また、施設利用者に対して利便性、快適性、機能性を考慮しつつ、建設時から運用に至るまで、幅広い分野で地域に貢献できる地域密着型の特別老人福祉施設として計画している。

Q1 室内環境

積極的なF☆☆☆☆建材の採用や効率的な室内換気、建物全体を禁煙とするなど、健康に害を及ぼす有害物質の発生を抑制または制御することで、建物内における空気質環境を向上させる計画とする。

Q2 サービス性能

居室単位での空間を広くすることで日常生活においてのゆとりを提供している。

Q3 室外環境（敷地内）

福祉施設の機能だけでなく、建物の一部に地域のふれあいの場を提供している。また、外壁・屋根の色彩は水俣・芦北景観形成ガイドラインに従い、周辺環境に調和する色彩を用いており、外構計画では芝張りや花壇等を設け、可能な限り緑化を図っている。

LR1 エネルギー

ハイサイドライトによる自然採光の有効利用、自然エネルギー変換機器を採用し、枯渇性エネルギーをなるべく使用しないことで環境負荷の低減を図っている。

LR2 資源・マテリアル

構造部材のほぼ全てにおいて県産材の木材を使用し、資源の持続を可能とするだけでなく、地域産材を積極的に使用することで地場産業の活性化に対しても貢献する。

LR3 敷地外環境

地球温暖化防止の一環の取り組みとして、エコキュートを採用し、大気汚染物質を発生させないように配慮している。

その他

-

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
特別養護老人ホームつなぎの里

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境								2.9
1 音環境		2.5	0.15	2.8	1.00			2.5
1.1 騒音		3.0	0.40	4.0	0.40			
1.1.1 室内騒音レベル		3.0	1.00	4.0	1.00			
1.1.2 設備騒音対策			-		-			
1.2 遮音		1.8	0.40	1.6	0.40			
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30			
1.2.2 界壁遮音性能		1.0	0.60	1.0	0.30			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	1.0	0.20			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	1.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20			
2 温熱環境		2.6	0.35	2.5	1.00			2.6
2.1 室温制御		2.7	0.50	2.5	0.50			
2.1.1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2.1.2 負荷変動・過渡制御性			-		-			
2.1.3 外皮性能		2.0	0.25	2.0	0.43			
2.1.4 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-			
2.1.5 温度・湿度制御			-		-			
2.1.6 種別制御			-		-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮			-		-			
2.1.8 監視システム			-		-			
2.2 湿度制御		2.0	0.20	2.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		2.4	0.25	3.0	1.00			2.5
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.2	0.30			
3.1.1 昼光率	3.0%, 3.6%	5.0	0.60	5.0	0.60			
3.1.2 方位別開口			-	3.0	-			
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.30			
3.2.1 照明器具のグレア			-		-			
3.2.2 昼光制御		1.0	1.00	3.0	1.00			
3.2.3 眩り込み対策			-		-			
3.3 照度		1.0	0.15	1.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境		3.9	0.25	4.1	1.00			3.9
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
4.1.1 化学汚染物質	積極的なF☆☆☆☆建材の採用	4.0	1.00	4.0	1.00			
4.1.2 アスベスト対策			-		-			
4.1.3 ダニ・カビ等			-		-			
4.1.4 レジオネラ対策			-		-			
4.2 換気		3.0	0.30	4.5	0.38			
4.2.1 換気量	中央管理方式の空調設備なし 居室部:基準法の規定1.4倍以上	3.0	1.00	5.0	0.50			
4.2.2 自然換気性能	有効換気面積:居室床面積1/15以上	3.0	-	4.0	0.50			
4.2.3 取り入れ外気への配慮			-		-			
4.2.4 給気計画			-		-			
4.3 運用管理		5.0	0.20		-			
4.3.1 CO ₂ の監視		3.0	-		-			
4.3.2 喫煙の制御	建物全体が禁煙	5.0	1.00		-			
Q2 サービス性能			0.30					3.0
1 機能性		3.0	0.40	4.2	1.00			3.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1.1.1 広さ・収納性	居室:10㎡/人以上	3.0	-	5.0	1.00			
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-			
1.1.3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.0	0.40			
1.2.1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50			
1.2.2 リフレッシュスペース		3.0	-		-			
1.2.3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50			
1.3 維持管理		3.0	0.30		-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-			
1.3.2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-			
1.3.3 衛生管理業務			-		-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31					3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48					
2.1.1 耐震性		3.0	0.80					
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33					
2.2.1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23					
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23					
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09					
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08					
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類B以上を使用、Eなし	5.0	0.15					
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23					

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			2.8	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	通信手段の多様化、地上設置	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			2.7	0.29	2.8	1.00
3.1 空間のゆとり			3.0	0.31	2.6	0.50
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	0.60
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	2.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			2.3	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		2.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		1.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.1
1 建物の熱負荷抑制			2.0	0.30	-	2.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.20	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	ハイサイドライトの設置	4.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	エコキュートの採用	4.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率照明・空調の採用	3.8	0.30	-	3.8
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)			3.0		-	
集合住宅の評価		ERR=13.9%	3.0		-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.2
1 水資源保護			3.0	0.15	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.63	-	3.3
2.1	材料使用量の削減		-	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.26	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生加熱アスファルト混合物、再生骨材	4.0	0.22	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材	使用比率 73%	5.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み		3.0	0.26	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-
1	消火剤	ハロン・ハロゲン化消化剤なし	4.0	0.33	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率:一般建築物(参照値)と同等以下	3.4	0.33	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器使用なし	5.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制	駐車、搬入スペースの確保	4.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの一部を満足、広告物照明なし	4.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 特別養護老人ホームつなぎの里

■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		80.6
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				81.6	0.40	32.64
Q1-2.1.3	外皮性能	2.0	0.06			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.06			
Q1-3.2.2	昼光制御	1.0	0.06			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	2.0	0.17			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.22			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.8	0.33			
LR2-2.1	材料使用量の削減	0.0	0.00			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.11			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				71.2	0.20	14.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				90	0.20	18.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	5.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				78.7	0.20	15.74
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数